

東レ株式会社

2026年3月期 第1四半期決算説明会（電話会議）
質疑応答要旨

日時：2025年8月8日

説明者：取締役 加藤 勇一郎

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

<全体>

Q. 第1四半期の着地は計画に対してどうだったか？上期、通期ともに見通しを据え置いているが、見直した結果据え置いたのか、あるいは今は判断できないから変えなかったのか？

A. 第1四半期の着地は概ね計画通りだったと認識している。一過性の要因が一部あったため低めの数字になっているが、実力的にはもう少し上だったと考えており、全体としては想定通りである。上期および通期見通しについては、改めて社内で集計し、その内容を踏まえて変更の必要はないと判断した。

Q. 戦略的プライシングによる利益改善効果額の今期目標は100億円だと思うが、第1四半期でどのくらいの効果があったのか？特定事業・会社の収益改善プロジェクト(Dプロ)による効果額も100億円を目標としていたが、第1四半期の効果は？

A. 戦略的プライシングの定量的な集約は半期に一度であり、今回は集約していないが、取り組みとしてはしっかりと進んでいると認識している。Dプロとしては、今期目標額100億円強に対して、第1四半期で数十億円の改善効果が出ている。

Q. 米国の関税措置に関連した第1四半期への前倒し、第2四半期への後倒し等の影響はあったのか？

A. 第1四半期の関税の直接的な影響は非常に限定的だった。2024年度第4四半期に見られたような駆け込み需要の反動や、様子見ムードの事業・製品があったほか、トランプ政権による関税等の施策により需要低迷に拍車がかかったものが一部あった。第2四半期では一部米国向けの製品で値下げ要求や受注減が生じている。これらを踏まえ、上期の関税影響は50億円よりは小さいとみている。ただし、間接影響は顧客の対応が不透明な点もあり、上期見通しは50億円の影響額を据え置いた。

<繊維>

Q. 繊維セグメントの第1四半期の事業利益は前年同期比+4億円であり、堅調に推移していると思う。衣料用途、産業用途、それぞれについて説明いただきたい。

A. 衣料用途は、欧州市場の低迷や海外品との競争激化の影響はあるが、総じて堅調に推移している。産業用途は、自動車生産回復の需要取り込みを図ったが、エアバッグはやや販売量が減少した。人工皮革はEV市場の競合激化は続いているが、高付加価値品を中心に販売を拡大した。原燃料価格の低下も増益に寄与している。

第2四半期に向けては、秋冬物の縫製品出荷が増加し、増益を見込んでいる。

<機能化成品>

Q. 機能化成品セグメントは、実需は比較的良かったと思われるが、東レの第1四半期実績は振るわなかった。第2四半期の見通しについて教えて欲しい。

A. 前年度の第1四半期はバッテリーセパレータフィルムが堅調だったが、当第1四半期では低迷したため、その差が大きかった。それ以外では、ケミカル事業で生産トラブルや市況低迷の影響があった。電子情報材料事業は有機EL関連材料で中国でのパネル事業の低迷の影響のほか、品種構成差や競合品台頭による価格下押し圧力の影響を受けた。また、前年度の第1四半期は一時的増益要因として商事子会社の引当金戻し入れがあり、これが今期剥落した。

第2四半期に向けては、樹脂・ケミカル事業では高機能品の展開や戦略的プライシングによる収益拡大を見込む。また、フィルム事業では、主力のMLCC離型用途は引き続き堅調と見ている。電子情報材料では、韓国子会社の回路材料で高付加価値品の拡大、パワーインダクタ向け新製品の拡大を見込む。Dプロでは、欧米フィルムで欧州子会社が出遅れていたが、着実に収益は改善してきており、今年度に黒字化達成の見込み。

<炭素繊維複合材料>

Q. 炭素繊維複合材料セグメントの事業利益が、第1四半期から第2四半期及び上期から下期に上がっていく予想となっているが、現在の787型機のビルドレートが7機/月で、今後引き上げられていくことを踏まえると、この計画は達成可能か？

A. 第2四半期は、航空機用途の大手顧客向けの販売は堅調に推移すると見ている。風力発電用途の緩やかな回復傾向も続くと見ている。一方で、圧力容器用途はCNGタンクが在庫調整局面に入ると見ている。

上期から下期にかけては大きく増益を見ており、航空機用途における顧客の生産機数引き上げが進展する見通しとなっていることが背景にある。一般産業用途は、CNGタンクの在庫調整の影響は出る見通しだが、総じて堅調に推移すると見ている。ラージトウでは、風力発電翼用途の回復需要の確実な取り込みを図る。

Q. 787型機のサプライチェーンの在庫調整の影響は第2四半期以降に解消する見通しか？

A. 足元ではまだ一部サプライチェーンの在庫調整の影響が残っていると見ているが、今後、在庫調整の解消に伴って、当社からの出荷量は順調に回復していくと見ている。

<環境・エンジニアリング>

Q. 環境・エンジニアリングセグメントで第2四半期に増益を見ているのは主に水処理事業か？水処理事業の中国市況低迷は第1四半期で終わるのか？

A. 水処理事業の中東や北アフリカ向けの海水淡水化案件や欧米向けのRO膜が堅調に推移する見通し。中国は景気低迷もあって全般的に低調になっているが、中長期的には成長市場であり伸びていくことに変わりはない。引き続きタイムリーな新商品投入、価格維持、きめ細かい営業活動を通じてシェア拡大を推進していく。

以上